

のぐち英一郎の活動 一部をご紹介します

NPO法人 かごしまホムレス生活者支援あつち

ホムレス生活の方のサポートを行うNPOです。日帰的な活動としては夜泊り、夜回り、月一回の料理会、日帰的な相談、シェルターの運営など。

※おにぎりを持っていただけるとホムレスケアさんを随時募集！お米はごちがいで準備します。

「原発」が「川」

原発と川をたがいを放射能が漏れたら2011年3月11日の東日本大震災後、鹿児島県の有志が集まってできた非常利用団体「川」。2014年は「鹿児島県の防災」をテーマにした活動を行いました。2015年と2016年は「川」の活動を続けました。



ママトコ保養プロジェクト

税金の節減実績

毎年税金で購入していた5000万円の美術品をやめるよう指摘。通算14年間で約5億円削減。



美術館の運営を見直し、無駄を削減するよう提案。通算13年間で約9億円の削減。

市と水道局のシステム開発のパッケージ化を提案。2011年より、のべ約3億円削減。



インタビューさんこんにちは！
野口さんのもっとインタビューをして、多くの個性豊かな人に出会いたいなって思っています。(Hさん)
普段の生活で困るものが少ない職員という仕事を知り、一緒に活動ができ、とても充実した日々でした。(Oさん)

のぐち英一郎 実績年表



- 2014 区川内原発の再稼働を止めるために議会内外で発言と行動を重ねる。
区一期目から提案し、実現した議員インタビュー制度でインタビューを受け入れ中。受け入れ者数累計は15名に。12月に議員給与の値上げ議案が可決。野口は議決に反対。勿論10万円の給与値上げ分は受け取り拒否。
- 2013 区より予相候補からの内部告発(公益通報)が廃止となり、12月本会議にて市の外郭団体の職員採用には、無公募と無競争採用が非常に多いことを指摘。その後、市の採用は「公募」と市長が記者会見で発言。
- 2012 区鹿児島市議4期目の議席にいたたく南大隅町の、放射性物質等受入拒否及び原子力関連施設の立地拒否に関する条例制定のために奔走(同12月に可決)。
- 2011 ボランティア有志により「ママと子どもを放射能から守る会」が立ち上げ。
区五選受け入れ拒否を鹿児島市議選挙生議に申し入れ。市長にも直訴。世論の動きもあり受け入れは中止。

結びに代えて

たいた日本中で、東日本大震災後初の原発再稼働が、この鹿児島から始まりそうだと目下の話題となっています。再稼働に私は反対です。ですが鹿児島市は国の判断に従い、再稼働を迫認しています。そこであれば市政運営として最低限のこと、やるべきがあることは考えます。

11月1日、九電による市民向けの再稼働説明会の開催。11月10日、原発事故を想定した、鹿児島市民の現実的な避難計画作りです。

現在、どちらに進む気配はなく、このままでは有事の際にこの鹿児島が一体どうなるか、想像し難くありません。

大好きなこの鹿児島と、これからここに生まれる新しい命を守るためにも、鹿児島市議としてこのことは必ず実現したい。もちろん、再稼働を止める努力も惜しみません。最後までお読み頂きありがとうございます。ご意見や相談等お気軽にお寄せください。

作らない政治 作らない議員

この1年は、鹿児島市議・のぐち英一郎です。議席をいたただいて今年で15年。初当選の28歳時に比べれば、中堅議員として20年の仕事の幅が広え、政治家としての成長もほつきつと形を成してまいりました。この1年がどうであれ、「野口」は議員になっても反対ばかりしているが、ホールや道路のひびひびり、作ったのがあんなのかわかぬ。「や」へ聞かれるのです。なぜならまた、議員の美談、活躍とは「一部の人のみ恩恵を得るような、公共仕事を発注する」こと、この理解を持つ人が、鹿児島にはまだまだ多いからなのです。

しかし私は、この自然豊かな鹿児島に、28億円の人工島を作ったり、桜島まで90億円の反対トンネルを掘るよりも、防災の仕組みを整えることに、本気で困っている人・行き場のない人への社会保険を優しく暖かいものにできる方が、「68万人の市民にとって、優先度が高

4/25 「のぐち英一郎と語ろう会」

環境、エネルギー、防災、弱者支援、行政チェックなど、議会での生の情報を皆さまと共有させていただければと思います。どうぞお気軽にご参加下さい。

【日時】 4月25日(土) 12:30～14:00
【場所】 鹿児島市 桜元校区公民館2階 (玉皇団地3-45-1 桜元小学校敷地内)
【参加費】 無料

のぐち英一郎について



鹿児島市議。2000年に28歳で初当選。以来4期当選、現在にいたる。なかなかわかりづらい政治の話を、議員だからこそ知りうる内情も混ぜて、わかりやすく解説します。最近は大学で講義もやります。趣味は、水泳と読書と料理(片付けは苦手)。

この講座に関するお問い合わせ
市民ネット のぐち英一郎
〒882-0811 鹿児島市玉皇団地3-12-7

☎ 080-4314-1121
✉ elichiro@entaku.info
🌐 http://entaku.info
📧 @entaku40
📖 「ほほ日刊! 鹿児島市議 のぐち英一郎」

く「無責任性・有効性があつて」だと思えて、議会の内外でその提案と実現を続けてきました。

ですから、何か大きな公共事業をしてきたのか? と聞かれれば、私は「はい、はい」といってはいけません。おまけに「はい」が必ずしも「いい」ということではないです。

でも、私はそれでいい、それがいいと思います。みなさんの税金で、みなさんに必要のないものを作るのは、やっぱりおかしい。

しかしそんな私にも、市議生活15年目にして、それだけな誇りができました。1期目から続けた市政の無駄遣いチェックと厳しい指摘によって、鹿児島市の節約金額は、述べ10億円を超えたのです。

15年目の節目の年に、私は改めて、自分が「作らない議員」である誇りを胸に、「ひびひ」の研鑽を積み、「作らない政治家」の道を邁進する所存です。「これからは、10億円の削減」のぐち英一郎を、改めて「ひびひ」へお願ひいたします。

10億円の削減



困窮

って何だろう?

自己責任で片付けないで!



のぐち英一郎 ニュース 野口

発行: 市民ネット



6人に1人は貧困と定義される 世界で4位の貧困大国 日本。

▼「本人はニコニコ笑っているし、身なりもきれいな。ゲーム機だつて持っています。ところが親しくなると話を聞くと、お母さんがうつ病で働けず、家の中がゴミだらけだとか、月末にはお金がなくて1000円の菓子パンを家族でわけあって食べているとか。親子3人、しばらくは軽自動車で生活していたという母子もいました」

▼これは、東京の豊島区で貧困問題と学習支援に取り組む、豊島WAKUWAKUネットワークの理事長、栗林知絵子さんのお話です。(通称生活支援「春号」)

▼野口は日頃、政治とは富める者をより豊かにするためではなく、困っている人、寂しい人を助けるためにこそあるものだと考えています。ところが、今や日本は先進国中第4位の貧困大国となり、6人に1人が貧困、と定義される状況です。

▼ここまでの状況になって、ようやく国は貧困対策に



力を入れはじめました。その結果、今年日本中で貧困対策が大きく進む年となりそうです。

貧困とは何か？

▼貧困とは、衣食住が十分に満たされていない、という意味合いでも使われますが、福祉の世界では「年間所得が122万円以内」と定義されています。これは、日本の平均的な給料手取り額の半分以下、という意味です。

▼そして日本の貧困率は世界的にも極めて高く、2008年の経済協力開発機構(OECD)という先進国の集まりでは、イスラエル、トルコ、チリに次いで、4番目の16%でした(アメリカは翌年に調査、「15%」でした)。つまり6人に1人が貧困層であるということが判明しました。それは多くの人が想像する、住みやすい日本のイメージとはかけ離れた状況かもしれません。

貧困の連鎖と 社会構造の変化

▼貧困に関わる資料を読み解くと、保護者の所得水準によって子どもの進学や就職の選択肢が狭まりやすくなるのがわかります。そういった負の遺産を親から継いだ状態を「子どもの貧困」と呼び、その状態が世代を超えて続くことを「貧困の連鎖」と呼びます。生まれた瞬間に、将来の仕事の幅や、収入が決まってしまうっている。それはもはや「自己責任」ではありません。



▼こうなってしまうことは、社会構造の変化に起因しています。バブル崩壊以後、雇い主は不景気を乗り切るために、必要に応じて労働者を雇用したり解雇したりと、人件費を調整するようになりました。この短期的な雇用は「非正規雇用」と呼ばれ、次第に日本に定着します。

貧困の隠れやすい 日本

▼しかし、非正規雇用はそもそも給与が低く、雇用期間も不安定、昇給や賞与も望めず、社会保険にも入れません。いくら働いても生活状況を改善しづらい厳しい現実が襲がりやすく、この12年間の非正規雇用の増加に伴い、貧困と定義される人の数は約140万人も増えました。

▼また、主に母子世帯では、子に不便を感じさせないよう無理をしても働く親が多いことがわかりました。日本には男女間格差があり、女性の方が給料や待遇が悪いことが多いためです。

▼そういった親の苦勞・頑張りを間近に見ながら育った子は、それとなく察し、自分の家が苦勞していることを、周りに表現しない傾向が強いことも明らかとなりました。

▼無理して働く忙しさゆえに、近所との関係性が薄くなると、地域社会から孤立しやすくなります。その結果、困窮の顕在化がされない、という悪循環にも陥ります。こうした「日本らしさ」も相まって、国が対策を取るまでに15年近くもかかりました。

各地の事例 大阪府堺市

2007年、福祉行政の課長さんが、堺市の貧困を調査し、論文として発表。

「親が保護を受給している母子世帯では、その子が大人になっても保護を受給する割合が4割にも達する」「10代での出産や最終学歴も、保護の世代間継承、貧困の連鎖と密接な関係がある」という衝撃的な事実が判明しました。

鹿児島県 鹿児島市

「残念ながら鹿児島市でも、世代を超えて生活保護が受け継がれる状況は少なくない実態がある」というお話を、野口は保護課の職員さんから伺いました。

また、鹿児島ではここ数年、若年層にも貧困状況が広がっていること、NPOの活動を通じて感じています。



貧困対策の鍵は 学習支援にあり

▼「中学3年生のTくんが、ぼつりと「おれ、高校に行けないかもしれない」とつぶやいた(中略)。「彼はお母さんとお姉さんの3人暮らし。中学1年生の時に豊島区に引っ越してきて以来、お母さんは働きづめだったようです。近所づきあいはなく、学校に親しい友達もいません。勉強のやり方がわからないと誰にも言えないまま、中学3年生になっていました。(中略)」

ふだん遠慮がちなTくんの必死のSOSを感じ取った栗林さんは、すぐに「勉強したいならうちにおいで」と声をかけました。そしてその日から毎日栗林さんの自宅で、Tくんのための無料学習塾が始まったのです。

▼これも、豊島区の事例です。Tくんはその後、栗林さんたちの取り組みと本人の努力によって、無事に高校に合格することができました。ようやく日本で顕在化され、動き出した貧困対策は、「学習支援」という形で始まりました。

▼去年の秋、野口は埼玉市から貧困対策事業の委託を受ける「さいたまユースサポートネット」の学習支援事例を見学しました。この団体は、週のうち平日2日、公共施設を借りて、スタッフ1人につき中高生1・2人の配分で、細かく勉強を見るのです。授業料も教材費も無料。スタッフは大学生で構成され、相談しやすく親しみやすく工夫されています。

▼学習支援はこのように、近くの大人や大学生が、子供たちの勉強を見る仕組みです。子供たちがきちんと教育を得ることさえできれば、自分の頭で物事を判断する力を身につけ、不当な状況を回避・脱出できる可能性も高まります。

▼そして、鹿児島市役所の方も市には貧困の現場がある、と明言されています。ですから野口は、埼玉のような手厚い学習支援を、鹿児島市をあげてやりたいのです。その旨を10年来、市議会にて提言しているのですが、未だに着手するはじまりません。時間が経てば経つほど、子供達は大きくなり、取り返しのつかない年齢が近づきます。



奨学金のあり方

▼また、教育と貧困の問題では、奨学金ローンも大きな話題となっています。卒業時点で一千万円近い借金を抱えるものの、社会に雇用がないため就職も難しく、返済の目処が立たない、といった問題です。最近では、北九州の40代の方が、

「奨学金の返済ができず自己破産」というニュースまでありました。

▼世界的には奨学金と言えは、返済義務のない給付奨学金を指し、返済義務のあるものは「学生ローン」と呼び、区別します。野口は、利子まで足して請求するような日本の現状は、そもそも奨学金の精神にそぐわないと考えていて、廃止の方向に舵を切りたいと考えています。

▼そして昨年末、政府は地方で就職する大学生には、奨学金の返済を減免する制度をつくる方針を固めました。それを受け、現在鹿児島県ではその準備に取りかかっています。

▼これからの人口減少と、少子超高齢化の未来を心配するのであれば、新卒の若者たちに抱えきれない負債を背負せるような社会設計は、変える必要があると野口は強く思います。

▼繰り返しのようですが、現在の貧困の問題は、個人の怠慢の結果ではなく、社会設計全体の問題なのです。であればこそ、解決は個人の努力によってではなく、社会設計全体の改善、つまりは理性的な政治によって行われるべき、と野口は考えています。

「残念ながら鹿児島市でも、世代を超えて生活保護が受け継がれる状況は少なくない実態がある」というお話を、野口は保護課の職員さんから伺いました。

また、鹿児島ではここ数年、若年層にも貧困状況が広がっていること、NPOの活動を通じて感じています。

各地の事例

大阪府堺市

2007年、福祉行政の課長さんが、堺市の貧困を調査し、論文として発表。

「親が保護を受給している母子世帯では、その子が大人になっても保護を受給する割合が4割にも達する」「10代での出産や最終学歴も、保護の世代間継承、貧困の連鎖と密接な関係がある」という衝撃的な事実が判明しました。

鹿児島県 鹿児島市

「残念ながら鹿児島市でも、世代を超えて生活保護が受け継がれる状況は少なくない実態がある」というお話を、野口は保護課の職員さんから伺いました。

また、鹿児島ではここ数年、若年層にも貧困状況が広がっていること、NPOの活動を通じて感じています。

保護の申請は
生活困窮者給付の方
がサポートしてくれる！

15年で
900件！



解決率90%!
のぐち英一郎の
よろず相談

- ☑ 生活保護申請
- ☑ 家庭、地域、職場での人間関係 (ハワハラ、セウハラ、DV被害など)
- ☑ 地域でのお困りごと
- ☑ 三歩、野良猫、歩行者の安全、公園安全整備など
- ☑ 在住外国人の生活相談

市民の方からのご相談、どこでも東西南北、伺います。またプライバシーは必ず守りますので、安心してご相談下さい。もちろん無料です。